

「一年の計は元旦にあり」といいますが、目標や誓いを一年ごとに新たにたてることで、人はその成長を確認しているのだと思います。平成23年が終わろうとしています。今年一年の自分の成長を評価し、ほめてあげることも大切です。一年前の自分と比較して「よくやったな。」と自分をほめる部分を見つけよう。きっとあります。

【高塚先生のコミュニケーション授業】

美川小で「赤ちゃん登校日」の授業をされた鳥取大学医学部准教授の高塚 人志先生に、四中生全員と美川小6年生が「コミュニケーション力向上～人との関わりが人を育む」の授業を受けました。

「普段、一緒に生活している仲間、家族同士でコミュニケーションとれてるか？」の問いで始まったこの授業。先生の迫力ある指導で、児童・生徒もぐいぐい引き込まれ「人と関わることの大切さ」を学んでいきました。「人との感じ方の違い」「立つ位置の違い」は、改めてなるほど感じさせられました。「違い」を認めることが自分をも大切にされることにつながることを再認識しました。

現在の大人や子どもが抱える大きな課題は、「他人と良い関係を築くこと」です。今日の高塚先生の授業から、「良いコミュニケーションの取り方」を学んだ生徒たちが、まず挨拶から変わっていつてくれることを期待します。

【自尊感情を高め自信をつけるために】

浜田の子どもは、学力調査のアンケートで、全国の数値よりも「自尊感情（自分を大事にし、誇りをもつこと）」が低い傾向にあることがわかりました。学校生活では、「出来ないこと」「良くないこと」を注意しがちですが、「以前より出来るようになったこと」「よくなってきたこと」を具体的にほめる指導をするようにしています。

学習意欲も無関係ではありません。進路への希望を持つためにも、まず生活習慣をきちんとし、できることを確実に実行していくことで「やれば出来る。」という意識が高まると考えます。

【これから四中を背負うのは1・2年生！】

生徒会選挙が終わり、いよいよ新体制が始まります。3年生も当初は不安だらけのスタートでしたが、行事の運営に関わり、成功させることで、全校をひっぱる力をつけ、自信をつけてきました。

「任される」ことで責任感や実行力が高まり、徐々に「四中のリーダー」になっていくと思います。

少ない人数で全校をひっぱっていかねばなりません。一人ひとりが自覚を高め、現生徒会の良さを見習い、新しい四中の伝統づくりを目指してほしいと思います。

【生徒総会で活発な質疑】

現生徒会の締めくくりとなる生徒総会では、各委員会への質問や答弁があり、積極的な意見が出されました。日常の活動をしっかりやっているからこそ、質問やそれに対する受け答えもできます。

この1年間、運営委員をはじめ委員会の仕事を通して、生徒たちの成長を感じました。

キャリア教育で大切な「自分の役割を果たすこと」で、認められ、社会で生きていこうとする意欲がこの生徒会の活動で培われています。次期生徒会もきっと四中の良さを引き継いでくれることでしょう。

【熱気あふれる球技大会】

2学期の校内球技大会は、バスケットボールです。体育の授業で、男子・女子一緒のチームで練習してきました。学年ごとにプレイの様子が違って面白いのですが、個人技を見せる生徒と、チームプレイで得点を重ねるチームなど、個性があって面白いと思いました。

授業では、1年生はまだドリブルが上手くできず、ロングシュートに頼っているくらいがありますが、2年になると、男子・女子がうまくパスを回し、全員が協力してリングへシュートにつなげています。3年になれば、また一層上手な生徒もおり、大変盛り上がっています。

球技大会は、前半女子、後半は男子のチーム縦割りで行われました。学年ごとに成長を感じる球技大会でした。



【幼・小・中合同しめ縄づくり】

毎年恒例となったしめ縄づくりですが、昨年からは四中2年生がリーダーとなって進めています。美川小と四中が育てた米の稲わらを使って準備してきました。稲刈りから脱穀、そしてしめ縄の準備として「わらそぐり」をして、当日に備えました。

当日は、地域から39名の指導者の方に指導していただき、園児から中学生までが全員しめ縄を作ることができました。美川の幅広い世代が体育館に集まるこの行事、なかなか他の地域では見られないように思います。



【浜田市人権作品コンクール】

最優秀賞

佐々木 花純 (ホースターの部)

「誰もが幸せな世界へ」
教育委員会から表彰を受けました。



今後のおもな予定

1月	10日	火	始業式 学力テスト生徒会認証式
	11日	水	学力テスト
	14日	土	市英語キャンプ
	15日	日	浜田市駅伝 (美川地区)
	16日	月	スキー教室 (大佐山)
	19日	木	邦楽鑑賞会 (2・3年生)
	24日	火	PTA 給食試食会
	26日	木	ふれあいスキー遠足 (つばさ学級)
	30日	月	3年生バイキング給食
	31日	火	3年生保育実習

【四中生の良いところは】

「あいさつができる。」「そうじを熱心にする。」そして「授業に集中して取り組むことができる。」「部活動に自分から積極的に取り組む。」これらは、四中生の良い点を私なりに挙げてみた観点です。

自分はどうでしょうか？

学校生活に関するアンケートでは、9割以上の生徒が、普段の生活の中で「あいさつ」「そうじ」がよく出来ていると感じ、良い評価をしています。また、「部活動」にもほとんどの生徒が積極的にやっている、と答えています。

しかし、「計画的な家庭学習」や「家庭での生活リズム」の質問では、4割近くの生徒が、「あまり良くない。」と答えています。

中学校の学習方法は、高校での授業のやり方に備えて「主体的な学習方法」を身につけていくことが求められます。この転換がうまくいっていないと感じる生徒が多いようです。

「宿題」「課題」をこなすだけでは受験勉強や高校の学習にはついていけません。現在四中が取り組んでいる放課後補充学習では、自分で学習内容を見つける、「自学」に取り組んでいます。この継続と拡充で「家庭学習」のやり方もみつけてほしいと思います。

【税の作文コンクール】

銀賞 大石 真由 浅浦 知愛

浜田税務署から、直接表彰していただきました。



『啐啄(そったく)』とは

鶏の卵を、ひなが中から殻をつついて生まれようとする時(啐)、その音を聞いて、親鳥がタイミングよく外から殻をついばんで破ること(啄)をいいます。

教育においても、親子関係においても学ぶべき大切な言葉です。(子の自立の力と教師・親の支援のあり方)

子どもの成長を見守り、巣立つまでの自立のタイミングを見ながら育てていく教育の原点がこの言葉に凝縮されています。